

JCMU newsletter

ミシガン州立大学連合日本センター
The Japan Center for Michigan Universities

No. 35
2004 秋

Director's Report

Jeffery Johnson,
Director of Japan Center for Michigan Universities

As many of you already know the Japan Center for Michigan Universities is deeply involved in the guide program of the American pavilion of Aichi Expo 2005 to be held in Nagoya. Martin Stack at the JCMU office based at Michigan

State University, Michelle Boodleman of Expo in Washington D. C., soon to move to Nagoya, and I are in the process of recruiting students who will work as guides at the American pavilion. The American pavilion will have American citizens as guides who all speak Japanese-and that is just one of the features that make the American pavilion unique among all the pavilions.

Since we at JCMU will be running our regular semester course simultaneously with the Expo 2005 guide training related courses and preparations, the Expo 2005 guides will be housed at the nearby Toyota rest and recreation facility on the shore of Lake Biwa. Toyota will generously allow JCMU to use the facility in January and February to house the Expo 2005 guides during their training. After that they will go on to Nagoya for further site-specific training.

At JCMU the Expo 2005 guides will be trained in Japanese for special purposes course. They will participate in guide related training activities in the Hikone area, and also have more generalized cultural activities to participate in. Mark Wilson of MSU will offer an online course on the history of Expo, and in addition the Expo guides will receive internship credits for their work in the American pavilion.

This is a unique and great opportunity for the students of JCMU, the JCMU consortium, and others. To become a part of Aichi Expo 2005 and the American pavilion, I am sure, will be a life changing experience for many of the guides, and for all a memory that they will cherish all their lives.

For further information on the American Pavilion of the Aichi Expo 2005 see the following website: www.uspavilion.com. For JCMU-specific information on Aichi Expo 2005 see the following website: www.isp.msu.edu/JCMU/USPavilion.htm. For general information on Aichi Expo 2005 in Nagoya see the following website: www.expo2005.com. For further information about being an Aichi Expo 2005 guide contact: Martin Stack <stackma1@mu.edu>, Michelle Boodleman <mboodleman@aichiusa2005.com>, or Jeffrey Johnson <john1982@msu.edu>. Don't miss out on this great opportunity. Become an American Pavilion guide for Aichi Expo 2005.



消防訓練のようす

ディレクターズ レポート

ジェフリー・ジョンソン
ミシガン州立大学連合日本センター所長

すでにご存知かと思いますが、ミシガン州立大学連合日本センターは、2005年愛知万博に出展するアメリカパビリオンのガイドプログラムに深く関わっております。ミシガン州立大学のJCMU担当のマーティン・スタック氏とワシントンDCの万博担当者のミシェル・ブードルマン氏とが来日した後、私たちJCMUはアメリカパビリオンで案内員として働く学生の募集を行います。アメリカパビリオンでは、日本語が話せる一般のアメリカ市民が案内員となります。世界各国の出展者の中でユニークな特徴の一つとなります。

私もJCMUでは、この万博ガイドのための養成講座と、本来の学期の日本語コースとを同時に行いますので、万博にガイドとして参加する学生は、本センターの近くの、琵琶湖岸にありますトヨタの保養施設をお借りして滞在することになります。万博ガイドの養成講座を行う1月と2月に、ガイドの住居として保養施設をJCMUが使用することを寛大にもお許しいただきました。養成講座終了後、ガイドの学生は、さらに専門トレーニングを受けるために名古屋へ行きます。

2005年万博の学生は、このJCMUでコースを受講することになります。彼らは、彦根地域でガイド活動に関係したトレーニングを受けるだけでなく、一般的な文化活動にも参加します。MSUのマーク・ウィルソン氏は万博の歴史についてのオンラインコースを提供してくれます。それに加え、学生はアメリカパビリオンでの就業に対してインターンシップ単位を受け取ることができます。

これは、JCMUの学生、JCMUコンソーシアムをはじめ、多くの方々にとって、ユニークで素晴らしい機会であり、愛知万博2005やアメリカパビリオンに参加することは、多くのガイドにとって人生を変える経験になり、その思い出のすべてが彼らの人生においてかけがえのないものになると私は確信しております。

愛知万博2005のアメリカ展示館についてのより詳しい情報は、ウェブサイト www.uspavilion.com を、愛知万博についてのJCMUの具体的な情報に関しましては、www.isp.msu.edu/JCMU/USPavilion.htm をご覧下さい。名古屋で開催される愛知万博2005についての一般的な情報につきましては、www.expo2005.com をご覧下さい。愛知万博2005のガイドに関する詳細につきましては、マーティン・スタック氏 stackmal@mu.edu、ミシェル・ブードルマン氏 mboodleman@aichiusa2005.com、もしくは、ジェフリー・ジョンソン john1982@msu.edu までご連絡下さい。愛知万博2005アメリカパビリオンの案内員になれるこの素晴らしい機会を是非ご利用下さい。

愛知万博2005のアメリカ展示館についてのより詳しい情報は、ウェブサイト www.uspavilion.com を、愛知万博についてのJCMUの具体的な情報に関しましては、www.isp.msu.edu/JCMU/USPavilion.htm をご覧下さい。名古屋で開催される愛知万博2005についての一般的な情報につきましては、www.expo2005.com をご覧下さい。愛知万博2005のガイドに関する詳細につきましては、マーティン・スタック氏 stackmal@mu.edu、ミシェル・ブードルマン氏 mboodleman@aichiusa2005.com、もしくは、ジェフリー・ジョンソン john1982@msu.edu までご連絡下さい。愛知万博2005アメリカパビリオンの案内員になれるこの素晴らしい機会を是非ご利用下さい。

特

集

滋賀で活躍するJCMU卒業生

みなさんは、滋賀県内の公立小・中・高等学校等で活躍する外国語指導助手 (Assistant Language Teacher; ALT) の約 10% が、JCMU の卒業生であることをご存知でしたか？

JCMU で日本の言葉と文化を滋賀の生活を通じて習得し、母国に戻って卒業をした後、児童生徒の英語の指導者 (ALT) として、本県英語教育に多大な貢献をしてくれています。彼らが、再び滋賀に帰ってきてくれているという現象は、滋賀県とミシガン州との交流事業にとって、貴重な無形の財産であると自負しております。

彼らの指導によって、生徒の国際感覚は醸成され、世界を身近に感じる若い世代の育成に不可欠で重要な役割を担っていただいています。

現在、八幡高校で活躍されているローリー・ニールさんと、守山市の中学校で活躍されているジョナサン・リバーさんの二人の卒業生が寄稿してくれましたのでご紹介します。

My name is Neal Rowlee. I am a recent graduate of Michigan State University with a degree in International Studies. During my time at Michigan State University I was fortunate to find the JCMU program. If it wasn't for this program I don't think I would be back here to Japan for my 9th time. Furthermore, I hope this message will encourage not only the current students, but even the entire staff of JCMU to continue with great effort. It is certain that my time spent at JCMU has had a great impact on my life and little did I know that I would be arriving here in Japan to teach English through the Japan Exchange and Teaching Program (JET).

As an Assistant Language Teacher (ALT) here in Shiga, I realize even more now that my experiences at JCMU has enabled me to lead a much more fuller life style here in Japan mainly for two reasons. First of all, the amount of Japanese instruction and knowledge that I was able to learn has allowed me to function much easier here within Japanese society. Even though our cultures are different, I believe the heart of creating relations lies within communication. The level and intensity of learning Japanese at JCMU is somewhat difficult, but it is true that any student can walk away with a great level of proficiency and knowledge of how to learn Japanese. Secondly, I will be the first one to say that it is not easy to learn another language, but the style in which I was taught at JCMU has allowed me to realize a way to teach the students that I am teaching English to now. The way the Japanese instructors taught, including Aizawa-sensei, Melville-sensei, and Nishikawa-sensei, have all had a great impact on how I interact with my current students. Their technique, style and rhythm created the path in which I am on now; my life after JCMU.

Now that I am teaching English here in Japan, I find that I am very grateful for all of the time I have spent studying Japanese at JCMU. I truly had no idea that I would become an English teacher after graduating from Michigan State. This is certainly an unexpected twist in my life, but I don't think I would be here if it wasn't for all of the great programs between Michigan and Shiga such as JCMU. So for those student who are still studying, keep up the good work! GAM-BA-RE!!

はじめまして、ローリー・ニールです。私は、ミシガン州立大学 (MSU) で国際学を専攻し、最近卒業しました。JCMU というものがあるということ、在学中に知ったことはラッキーで、もし、このセンターがなければ、今回こうして9度目の来日をする事はなかったと思います。在学生の方やJCMUスタッフの方々のために、今回寄稿させていただきます。JCMUで過ごした毎日というのは、自分の人生にとっても大きな影響を与えましたし、当時、JETプログラムで英語を教えるためにもう一度ここに戻ってくるんじゃないかとも感じていました。

滋賀県のALT (外国語指導助手) である私にとって、JCMUでの経験というものが、今の日本での生活を実り多いものにしていただいているのだと気付きました。特に今、二つのことを感じています。

まず、JCMUで受けた日本語の教育や知識が、この日本社会の中で私を上手く機能させていると思います。文化の違いに遭遇しても、お互いの絆を深める本質は、コミュニケーションにあると思っています。JCMUでの日本語学習は、やや難しいですが、どの学生も、ペラペラの日本語が話せ、その学習方法の知識を持つことができるのです。

次に、外国語をマスターすることは簡単ではありませんが、私がJCMUで教わった日本語の勉強方法は、今私の生徒が教わっている英語の勉強方法と同じであると感じております。当時のJCMUの先生方 (相澤先生、メルビル先生、西川先生) の指導方法は、どのように生徒に接すればよいかという点で、とても大きな影響を与えてくださいました。その指導技術、方法や生徒との間のとり方など、今の私の指導方法の道標になっています。

日本の教壇に立つ今、JCMUで日本語の学習に費やした時間は、とても貴重なものになっています。そもそも自分が大学を卒業して英語の教師になることなんて全く予想していませんでした。人生の予期せぬハプニングとでも言うべきでしょうか。しかしながら、JCMUのような滋賀とミシガンとの実施する素晴らしい事業がなければ、今ここにいることはなかったと思います。

現在、勉強中の学生のみなさんがんばってください。

《冬学期英語プログラムご案内》

開講期間2005年1月5日(水)~3月22日(火)

英語集中コース

月~金 10:00~12:00 13:10~15:10

留学・進学・転職・自己啓発のための英語総合力アップを図るコースです。午前中のみ受講できるモーニングコースもあります。

*アメリカからの留学生向け付属寮にルームメイトとして入寮できます。

スキル・テーマ別コース

週1~2回 10:00~12:00 13:10~15:10

あなたの目的・時間にあわせて、「スピーキング・リスニング」、「ライティング」、「アメリカ・オン・ビデオ」、「総合英語」の実力アップを図るための4つのコースがあります。

夜間コース

月・木 週2回 19:00~20:30

実用英会話ブラッシュアップのための夜間コースです。

申込締切 2004年12月15日(水)

詳しくは、ミシガン州立大学連合日本センター
TEL 0749-26-3400までお問い合わせください。

《SERENDIPITY》

アテネオリンピック、日本の選手の活躍が目覚しく、つい夜更かしが過ぎました。競技後は、選手の表情も、過酷な練習に耐えて、ベストを尽くした達成感が窺い知れ、さわやかで、感動しました。女子マラソンでは、野口みずき選手が金メダルを獲得、シドニーオリンピックでの高橋尚子選手に続いて、日本人が連覇しました。テレビの前で大声援を送りながら、ふと日本の科学者が、シドニーオリンピック開催の年から三年連続で、ノーベル化学賞を受賞するという偉業に感激したことが思い出されました。そのひとり、白川英樹博士は、ポリアセチレンのフィルムにハロゲンを加えることにより導電性ポリマーを発見し、共同研究者のAlan G. Macdiarmid教授(ペンシルバニア大学教授 無機化学)、Alan J. Heeger教授(カリフォルニア大学サンタバーバラ校教授 固体物理学)とともに、その発見と開発の業績により、2000年のノーベル化学賞を授与されました。ポリアセチレンは、ポリエチレン、ポリプロピレンと同じ仲間のプラスチックで、アセチレンを重合してつくられますが、当時は、ポリエチレンなどのようなフィルム状ではなく、不溶性で粉末状のものでした。あるとき研究室でポリアセチレンの合成方法を指導していたところ、触媒の量をまちがえ、さらに磁気攪拌器の回転をその場でコントロールしなかったために、重合反応が進行してなくて、失敗したと思いましたが、注意深く調べてみると、表面にフィルムができていたことに気がきました。これにより導電性ポリマーの発見につながったわけです。

白川博士は、著作や講演の中で、このことを、SERENDIPITYなる着想だと言います。

りんごが落ちるのを見て、ニュートンが万有引力の法則を発見したり、蒸気が鉄瓶のふたを持ち上げるのを見て、ワットが蒸気機関車を発明したのも、探し求めていたわけではないけれども、偶然の幸運で、すばらしい発見をする能力がニュートンやワットに備わっていたというのです。

SERENDIPITYは、Horace Walpoleが「The three princes of Serendip」というおとぎ話の主人公たちのもつ能力からつくった言葉です。思わぬものを偶然に発見する能力というような意味になるのでしょうか。自然科学や工学の分野だけでなく、文学や芸術などあらゆる分野でSERENDIPITYはあると、白川博士は言います。人間が生まれながらにして持っている洞察力、好奇心、探求心と言い替えてもいいかも知れません。狂犬病ワクチンを発明したLouis Pasteurは、「幸運の神は、用意された人の心にもみ訪れる」と言い、この世を去るまで研究の手を休めなかった、と言われていました。これらの能力は、磨かなければ、年をとるに従って、急速に退化する、ということなのでしょう。「用意」には方程式やセオリーはありません。大事なものは、広い知的背景や深い洞察力、文化的素養であるように思われます。(真田 傳強)

2005年度 行事予定

10/29 金 ハロウィンパーティー

11/19 金 第14回ミシガンカップ
スピーチコンテスト

12/11 土 日本語発表会

1/4 火 日本語・日本文化/
社会プログラム春学期開講

1/5 水 英語プログラム冬学期開講

長期ホストファミリー募集

ミシガン州立大学連合日本センターでは、アメリカ・ミシガン州を中心に、全米の大学から来日している留学生のホストファミリーを随時募集しています。留学生たちは、日本語、日本文化に興味をもち、日本の家庭で生活しながら、日本人とのふれあいを求めています。ひとりでも多くの留学生がホームステイの体験ができるようご協力をお願いします。

当センターまでの通学所要時間が、1時間程度の範囲にお住まいのご家庭であることなどの条件がございます。

詳しくは、下記までお問い合わせください。

Snapshots



書道体験でのひとこま

ミシガン州立大学連合 日本センター

〒522-0002
滋賀県彦根市松原町網代口1435 86
TEL 0749 26 3400 FAX 0749 24 9356
編集・発行 (財)滋賀県国際協会 彦根事務所